

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション永田
所在地	(〒 9 4 0 ― 0 8 7 4) 新潟県長岡市永田 2 丁目 9 番 25 号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(7) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 2 月 17 日	出席人数 (合計)	(20) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (2 人) ■市町村職員 (1 人) ■地域包括支援センター職員 (1 人) ■地域住民の代表者 (3 人) ■利用者 (1 人) ■利用者の家族 (1 人) ■知見を有する者 (5 人) ■医療従事者 (6 人) ■その他 (人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・理念、運営方針、業務目標を共有し、理解したうえで業務を行い事業所全体のケアの向上を図る。 ・法人内外の研修に参加し更に介護技術の向上を図る。 ・BCP に沿って災害や感染症対応を速やかに行動できるよう確認や訓練を行い、利用者に安心してもらえるサービス提供に努める。	・理念・運営方針・業務目標を常に意識して業務をしている。 ・法人内外の研修へ参加しスキルアップを図っている。 ・BCP に沿って災害や感染症対策が速やかに出来るように、講義や訓練を行った。	・園の理念に沿った事業所の目標を意識して出来ている。 ・積極的に研修に参加している。 ・訓練や講義を行っていた為、災害時や感染症が発生した際も BCP に沿って慌てずに対応できた。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	・その人らしい生活を過ごせるように出来ることや思いに着目し各担当を中心にモニタリングを行い、変化時には直ぐ多職種と連携しアセスメントを行い介護計画書の修正を図る。 ・先を見越した適切なリスク管理のためにリスクマネジメントに努める。	・毎月、モニタリングを行い現状での課題をミーティングや計画作成者と一緒に検討し、多職種と連携して介護計画書の修正をした。 ・少しでもリスクがありそうな事は職員間で共有し、リスクマネジメントに努めた。	・毎月きちんとモニタリングを行い、課題がある際はミーティングなどで検討し多職種にも伝え、介護計画書などを連携して修正できた。 ・リスクについて気付いたことは直ぐに口頭やタブレットなどで共有していたが、内服事故を起こしてしまったので更にリスクマネジメントに努める。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	・フェニックスネット等を活用し関連機関との連携を密に図り、在宅生活を安全に安心して継続出来るように努める。	・フェニックスネット等を活用し、関連機関へ情報を素早く伝えるようにしている。 ・新規利用者の契約時にフェニックスネットを説明し登録してもらっている。	・在宅生活を安心して継続出来るようにフェニックスネット等を活用し関連機関と情報の共有ができています。 ・新規利用者の契約時に説明し登録できている。

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	・推進会議以外に年 4 回定期随時の会報を発行、サポートセンター永田全体で地域に向けた広報誌を発行する。 ・地域の行事などに参加し、顔の見える関係作りを行い意見や要望など聞きながら地域の方と関わり、相談しやすい関係作りに努める。	・推進委員への会報を定期的に発行し、サポートセンター永田としても地域に向け広報誌を発行した。 ・地域行事やサポートセンター永田にパンの移動販売を呼び、地域の方と交流を図り、情報交換ができた。	・推進委員への会報やサポートセンター永田として広報誌を発行した。広報を見て相談に来られる方もおり、地域との関係は少しずつ出来てきた。今後も継続する。 ・地域交流の場としてサポートセンター永田をあまり活用できなかった。 ・
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	・職員全員が、理念、運営方針、業務目標を認識して質の高いケアの提供を目指す。 ・利用者、家族の声を聞き、その人らしい生活が最期まで安心して出来るように援助する。	・その人らしい生活を最期まで続けられる為に ACP を意識したコミュニケーションを図り、タブレットに記入して情報を共有し、利用者・家族の声から想いを汲み取り援助している。	・職員一人一人が、ACP を意識しその人らしい生活を最期まで安心して続けていけるかを考え、会話からの情報などをタブレットなどで共有している。今後も継続して行く。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・園の理念に沿った事業所の目標を意識して出来た。 ・積極的に研修に参加していた。 ・訓練や講義を行っていた為、災害時や感染症が発生した際も BCP に沿って慌てずに対応できた。	・定期的な事例検討会の開催。 ・サテライト永田となり、一体的に運営する為、より統一したケア、質の向上に努める。 ・園の理念、目標を理解し、その人らしい暮らしが出来るようにサービスを提供する。 ・ヒヤリハットを活かし、事故対策を未然に防ぐ。事故後の検証をしっかりと行い、同じ事故を繰り返さない。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	・毎月きちんとモニタリングを行い、課題がある際はミーティングなどで検討し多職種にも伝え、介護計画書などを連携して修正した。 ・リスクについて気付いたことは直ぐに口頭やタブレットなどで共有していたが、内服事故を起こしてしまったので更にリスクマネジメントに努めた。	・F SOAP記録の研修の実施。記録能力を身に付け、スキルアップに繋げる。 ・アセスメント力を強化する事で、利用者の自立支援、意向に沿った援助に繋げる。 ・先を見越した適切なリスク管理のために、リスクマネジメントの強化に努める。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	・在宅生活を安心して継続出来るようにフェニックスネット等を活用し関連機関と情報の共有ができた。 ・新規利用者の契約時に説明し登録できた。	・在宅生活を安心して継続出来るように体調変化時などフェニックスネット等を活用し関係機関と情報共有し、プランの見直しなどをスムーズに行える様にする。 ・フェニックスネットに連携していない事業所、利用者対しても同じように情報共有ができる。

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	・推進委員への会報やサポートセンター永田として広報誌を発行した。広報を見て相談に来られる方もおり、地域との関係は少しずつ出来た。今後も継続する。 ・地域交流の場としてサポートセンター永田をあまり活用できなかった。	・福祉のサービス内容を情報発信し、地域の方に理解してもらう事で、お互い助け合える関係性を築く。 ・病院や居宅介護事業所等への説明会を継続して行い、定期随時の理解を深める。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)		・職員一人一人が、ACP を意識しその人らしい生活を最期まで安心して続けていけるかを考え、会話からの情報などをタブレットなどで共有できた。今後も継続して行く。	・園の理念に沿ってその人らしい生活、築き上げた暮らしを支えられる事を常に考えながら、サービスを提供する。 ・職員一人一人の意見を吸い上げ、職員同士で考える力、気づく力を身に付ける。利用者に質の良いサービスに繋げる。 ・フェニックスネットによる多職種との連携、情報共有方法の改善を継続して行っていく。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します